



四

二月に入りました。コロナが流行して一年になります。我々の施設には、ウイルスが入つておらず、といいますか皆様の御協力でウイルスを防御しております。

政府は十一都府県に発していた緊急事態宣言を栃木県のみ七日に解除しました。しかし、残り十都府県については、感染者数は減少傾向にあるも、医療体制がまだ逼迫しているとして、三月七日まで延長しました。しかし、感染状況が改善した地域から順次、期限を待たず解除する方針のようです。唯あくまでも油断は禁物です。用心に越したことはないでしょう。

さて、それに並行してワクチン接種実施に向け動き出したようですが。副作用等が心配との方もおられるでしょうが、心配していても先に進めないでしょうし、ある程度覚悟を決めて受けていかねばならないでしょ。

コロナに関しては、新型コロナウイルス感染症への警告をいち早く発し、「デマを流した」として処分された武汉市の医師李文亮氏が自身もコロナに感染し亡くなつてから七日で一年になります。李医師を英雄視する市民の追悼行動が政府批判につながると警戒し、李医師の勤務先だった「武汉市中心医院」前広場は柵が建てられ出入りが規制されていました。中国政府の都合の悪いことは隠してしまって、いう態度は、いつの世も変わらないようです。

The image is a composite of two photographs. The top right photograph shows a person in a red jacket and blue pants walking up a grassy hill, with a large blue stylized character '山' (Mountain) and the text '歩きを' (Walking) overlaid on the right side. The bottom left photograph shows a traditional stone signpost (鸟居) in a garden setting with trees and a path.

しかし、なんと言つても香川県の山登りに欠かせない山と言えば、讃岐富士こと飯野山です。標高約四二二メートルで毎日山歩きをしてる方もいる人気の山です。主に飯野・飯山・坂出と三ヶ所の登山コースがあり、難易度が異なります。まずは人気の飯野コースから挑戦してみてください。

◆冬の山歩きのメリット

冬山は、春や秋と違つて草花を愛でるところとはあまり期待できませんが、蜘蛛や蚊などの虫がほとんどいません。また、蜂や蛇などに遭遇する心配もなく危険が少ないのがメリットです。しかし、慣れない人は一人で行かず、二人以上で行くことをおすすめします。



広報純心便り



トピックフ

- 山歩きをしてみましょう
○ギラン・バレー症候群について
○旬の素材で簡単料理

山歩きをしてみましょ〜！

信頼される医療

専 門 外 来	消化器内科	前田純 末次史幸	呼吸器外科	吉田千尋
	消化器外科	鈴木康之 馥元謙介	泌尿器科	多田羅潔
		古市ゆみ	糖尿病外来	鈴木一永
		香川医大消化器外科	小児科	濱田嘉徳 辻正子



当院では、正面玄関や病棟に「ふれあいの箱」というご意見箱を設置しておりますので、当院に対するご意見・ご要望等ございましたらご遠慮なくお聞かせください。

ギラン・バレー症候群とは

ギラン・バレー症候群は、感染症やワクチン接種などをきっかけにして発症する神経疾患のひとつです。

原因となるきっかけからおよそ1ヶ月間に、足に力が入りにくくなったり、しびれたりするなどの神経症状が現れます。

3週間後に、足に力が入りにくくなったり、しびれたりするなどの神経症状が現れます。

原因となるきっかけからおよそ1ヶ月間に、手や顔面、呼吸機能などにも影響が及ぶことがあります。

その結果、階段を上りにくい、食べ物を飲み込みにくい、呼吸が苦しいなどの症状を覚えることがあります。人工呼吸管理が必要になることもあります。

症状は下肢に留まることなく、手や顔面、呼吸機能などにも影響が及ぶことがあります。

その結果、階段を上りにくい、食べ物を飲み込みにくい、呼吸が苦しいなどの症状を覚えることがあります。人工呼吸管理が必要になることもあります。

原因

感染症のきっかけには主に、カンピロバクターは、ウシやブタなどの家畜や鶏などの腸管に広く存在していますが、特に鶏の保菌率が高いといわれており、市販の鶏肉は高率で汚染されているといえます。通常は、2～5日で回復しますが、再発することもあります。

感染症のきっかけには主に、カンピロバクター食中毒の原因であるカンピロバクター・ジエジュニ。ヘルペスウイルスの一種である、サイトメガロウイルスやEBウイルスなどへの感染があり、細菌やウイルスに感染すると免疫反応が誘導され、人間の神経を攻撃してしまう重症例に対しては、人工呼吸管理やペースメーカーの使用なども検討されることがあります。

治療

ギラン・バレー症候群の治療は、免疫グロブリン静注療法・血液浄化療法が主体となります。

また、ギラン・バレー症候群では、呼吸筋の麻痺や自律神経障害を来たすとともに、重症例においては呼吸不全や不整脈を呈することがあります。

重症例に対しては、人工呼吸管理やペースメーカーの使用なども検討されることがあります。

【免疫グロブリン静注療法】
ヒト免疫グロブリンを点滴する治療です。

【血液浄化療法】
血液から血球を除いた液体成分（血漿）を遠心分離器・半透膜などを用いて分離し、血漿中の有害物質を取り除いてから体内に戻す治療法です。

因子としては、①高齢者の方、②先行感染として下痢症状があつた方、③発症時や症状がピークの時に高度の麻痺がある方（特に人工呼吸を必要とする呼吸筋麻痺がある方）、④筋電図で軸索障害を疑わせる所見のある方、⑤不整脈などの自律神経障害がみられた方などがあります。

とがあります。

この自己抗体が神経を攻撃することで、ギラン・バレー症候群が発症する原因となるリクチンや薬剤でも、このよう

な免疫反応を誘導することができます。また、ワクチンや薬剤でも、このよう

考えられています。

また、インフルエンザワクチンな

どがあります。

この自己抗体が神経を攻撃することで、ギラン・バレー症候群が発症する原因となるリクチンや薬剤でも、このよう

な免疫反応を誘導することができます。また、ワクチンや薬剤でも、このよう

考えられています。

また、ワクチンや薬剤でも、このよう

な免疫反応を誘導することができます。また、ワクチンや薬剤でも、このよう

考えられています。

この自己抗体が神経を攻撃することで、ギラン・バレー症候群が発症する原因となるリクチンや薬剤でも、このよう

考えられています。

また、ワクチンや薬剤でも、このよう

な免疫反応を誘導することができます。また、ワクチンや薬剤でも、このよう

考えられています。

また、ワクチンや薬剤でも、このよう

な免疫反応を誘導することができます。また、ワクチンや薬剤でも、このよう

考えられています。

症状

検査と診断



ギラン・バレー症候群の診断には、特徴的な症状の確認に加え、筋電図検査、血液検査、髄液検査が行われます。

感染が原因の場合は、感染症の発症後、約1～3週間以内にギラン・バレー症候群に関連した症状が現れます。

初発症状は、足が動かしにくい・しびれなどが多いです。

神経症状は、下肢に現れます。徐々に腕や体幹、場合によっては顔面にまで広がることもあります。

また、運動機能に障害が生じることが多く、階段を上りにくい、手に力が入りにくくなることがあります。

多く、階段を上りにくい、手に力が入りにくくなるなどの症状から始まり、より症状が進行すると、物が二重に見える（眼球周囲の筋肉の麻痺）、物が飲み込みにくい（飲み込みに関わる筋肉の麻痺）、息苦しい（呼吸に関連する筋肉の麻痺）などの症状がみられるようになります。

また、自律神経系にも異常が及ぶことがあります。排尿障害や不整脈が現れる場合もあります。

神経症状が徐々に悪化していくことがギラン・バレー症候群の特徴ですが、およそ4週間の経過で症状がピークに達します。症状の強さにもよりますが、数か月の経過で症状が改善します。なかには麻痺を残すこともあります。なかには最悪の場合、呼吸不全から亡くなってしまう方も多くまれにいます。

【筋電図検査】
ギラン・バレー症候群では、病気に特徴的な自己抗体が検出されることがあります。

すべての患者さんにおいて認めるわけではありませんが、たとえば「抗GM 1抗体」などの抗体が検出される際に

血液活動を行っています。ギラン・バレー症候群では、神經を通る電気活動が障害を受けているため、筋電図検査によって情報伝達障害を確認します。

【血液検査】
ギラン・バレー症候群では、病気に特徴的な自己抗体が検出されることがあります。

すべての患者さんにおいて認めるわけではありませんが、たとえば「抗GM 1抗体」などの抗体が検出される際に

血液活動を行っています。ギラン・バレー症候群では、神經を通る電気活動が障害を受けているため、筋電図検査によって情報伝達障害を確認します。

【髄液検査】
髄液検査では、タンパク質の増加を髄液から確認することができます。ウイルス性や細菌性の髄膜炎においても髄液検査を行うことがあります。これとは対照的に、ギラン・バレー症候群においては炎症細胞の増加を認めます。これとは対照的に、ギラン・バレー症候群においては炎症細胞の増加は認めないこともあります。

【検査と診断】
神經から筋肉にかけての情報伝達は、電気活動を行っています。ギラン・バレー症候群では、神經を通る電気活動が障害を受けているため、筋電図検査によって情報伝達障害を確認します。

ギラン・バレー症候群では、病気に特徴的な自己抗体が検出されることがあります。

すべての患者さんにおいて認めるわけではありませんが、たとえば「抗GM 1抗体」などの抗体が検出される際に

血液活動を行っています。ギラン・バレー症候群では、神經を通る電気活動が障害を受けているため、筋電図検査によって情報伝達障害を確認します。

【検査と診断】
神經から筋肉にかけての情報伝達は、電気活動を行っています。ギラン・バレー症候群では、神�を通る電気活動が障害を受けているため、筋電図検査によって情報伝達障害を確認します。

ギラン・バレー症候群では、病気に特徴的な自己抗体が検出されることがあります。

すべての患者さんにおいて認めるわけではありませんが、たとえば「抗GM 1抗体」などの抗体が検出される際に

血液活動を行っています。ギラン・バレー症候群では、神�を通る電気活動が障害を受けているため、筋電図検査によって情報伝達障害を確認します。

この自己抗体が神経を攻撃することで、ギラン・バレー症候群が発症する原因となるリクチンや薬剤でも、このよう

考えられています。

また、ワクチンや薬剤でも、このよう

な免疫反応を誘導することができます。また、ワクチンや薬剤でも、このよう

考えられています。

また、ワクチンや薬剤でも、このよう

な免疫反応を誘導することができます。また、ワクチンや薬剤でも、このよう

考えられています。

この自己抗体が神経を攻撃することで、ギラン・バレー症候群が発症する原因となるリクチンや薬剤でも、